

投票理由

自衛隊を組織改編して「防衛（戦闘）の専門部隊」と「災害救助の専門部隊」に分ける。

そのために必要な法律（自衛隊法など）を改正する。

賛成：p2－6

反対：p7－12

賛成

もちろん、必要に応じて相互に協力しあうことはあってしかるべきだが、それぞれの専門性を磨いたほうが望ましく感じられるため。
救助専門部隊があることで、能登のような放置状態がなくなることを期待
国防と消防は分けて、自衛隊を、国防専門部隊に改変すべき。ドローンや情報通信技術を使ったテロにも対応しなければいけない時代になりました。こちらも国防として考える必要があります。
基本的には賛成だが、この方針を今の言葉で発信することにはやや疑問がある。単純に考えると、「二つに分ける」ことを示しているように感じるが、現実的には「おおまかに三つに分ける」必要がある。「防衛（戦闘）の専門部隊」と「災害救助の専門部隊」、「どちらにも対応できる部隊」だ。災害救助部隊として作る以上、人員も装備も訓練も維持費、教育や募集、その他後方活動も新たな枠が必要となる。一部は共有し、あるいはことに臨んでは責任者の一任でそれぞれへのコスト配分を取捨選択できるようにすべきだろう。より自由度の高い制度設計を進めてほしい。
明記することにより、政府は勝手な解釈ができないようにする。
国土防衛と災害救助活動は異なる専門性が必要であり、自衛隊の中に災害救助に特化した部隊を設けノウハウを蓄積すべき。
将来的に災害救助専門部隊だけにしたいから
災害救助のための予算を確保しプライオリティを明らかにしておくことで、一人でも多くを救える可能性が高まる。災害救助チームを他国派遣すれば、日本の国際貢献や平和外交推進が実現できる。
自衛隊の任務が現状では不明確であるため自衛隊を組織改編して「防衛」と「災害救助」という明確な目的を任務とする必要な法律を整備する必要があるため
災害の多い日本では災害時に有事がダブルで起きる、またはその逆もあり得る
近年は気候変動で災害が激化し、非友好国活動が活発化する中で、二つの業務を同時に行うのは困難になりつつある。自衛隊の災害業務を消防隊などに引き継ぎ、防衛に専念していくことが個人的には必要だと考える。
限りなく戦闘部隊は縮小していいと思うくらいです。
日本の自然災害に特化した方が良い
防衛と災害救助で分けることによって、当の自衛隊員達の労力が減ることに繋がると思いました。
改正するにあたり、自衛隊を根本的に議論することができると思いました。
気候変動による災害が増加している現状に素早く対処するために「災害救助の専門部隊」が必要です。そしてその部隊は実力組織としての役割を持つ自衛隊と切り離すべきと考えます。
各種災害多発の中、即応行動部隊が必要だし、二つに分けることで、それぞれの隊員のモチベーションが明確になると思うから。
専門性を高め、役割を明確にし、自衛隊の存在意義を高めてほしい。
災害救助は喫緊の課題だ。強力な整備が必要だ。
究極の選択としての「賛成」です。戦闘軍団を認めた場合は、やはり軍備拡大、外交縮小に走ると考えます。
防衛と災害救助は、必要なスキルが全く異なるため、災害救助は別の組織に再編（災害対策省の創設）することが望ましいと考える。
軍隊は不要であり、日本だけでなく世界中の災害救助に即応可能な組織をつくるべきです。
防災庁も討議されており、これまでの自衛隊の存続意義を高める為、防災部門として活躍の場を広げるべき。能登災害もある意味、自民党、財務省が加害者である。
災害が多い日本なので、専門部隊があると心強く、無断で高額なミサイルやオスプレーではなく、災害の備えを充実して欲しい

令和新撰組も言っていたのを聞いて、良い案だと思っていたから！
地震や災害が世界の2割を占める日本に特化した災害救助隊の設置の必要性を感じるから。
私も昔から同じ考えです。昨今の異常気象で災害の回数が増え死者も出る中、戦後戦死した日本人は居ないのでどう考えても比重は災害被害だからです。
災害部隊に再編することは災害多発国には必要なことと考える
災害の多い日本では分業の方が効率が良い。
災害大国になってきている日本には必要な組織である
外国の攻撃などよりも年々激しさを増す自然災害こそが喫緊の安全保障問題であると考えため。
昨今の気象異常・変動を考えると国レベルでの災害救助ノウハウ蓄積は不可欠。実績経験のある自衛隊こそ適任。各スペシャリストを育成した方が自衛官の負担軽減にもなると考える。
「人殺しをしなくて良く、救助だけ」と明確なら参加したい人が集まりそう。ただし戦闘側応募がさらに下がる懸念はある。
現在も災害救助隊であるので
災害派遣のプロを育成。国際社会の信頼を創出する。
自衛隊は、PKFに出れば軍隊として扱われる。それでは、日本は憲法9条を信条とする不戦の国としての価値が消失する。そのため、分離したのち、どうしても必要なら最終的には憲法9条を改正して軍隊をもつ普通の国になるべき
我が国のようにほぼ毎年のように大災害が起こっているような災害大国にあっては、国土防衛、国民防衛というなら、真っ先に行動する災害救助に特化した省庁や人員を持つべきである。防衛予算を2倍化したいのなら、軍事面は据え置きで、災害防衛面を従来の軍事費相当額を当てればよい。自衛隊は2分化し、再編成すべし。
災害が毎年多い日本では、やはり「災害救助の専門部隊」は必要だと思う
自衛隊はあくまで軍隊だと思っています。一方で大規模災害時に通常の消防・警察だけでは救援の手が足りず自衛隊が活躍をしてきました。しかし、災害時救援のエキスパートではないので、消防・警察との連携が円滑ではないとも聞いています。災害大国日本には災害時救援の専門家組織が必要だと思います。自衛隊の縮小ですが、総論賛成・各論は悩みどころで賛否がまだ自分のなかで決められません。
専門性に特化したほうがいい。災害の際、他国が侵略してくることが想定される。
日本は、周辺が変な国ばかりなので（台湾以外）、対抗手段が必要だから。
「災害救助」のみとする。武装は解除！
自衛隊を国境警備隊に改組して、災害救助隊としても活動できるようにする
平時ならば組織改編の必要はないが、万が一戦争中に災害が起こった場合、救助要員が戦場に居て集まらないという事態になるのは困る。また、「災害救助専門部隊」として独立させた方が人が集まるのでは？
自衛隊という組織はその性質上災害時に活動する割合が大きく、尚且つ災害派遣を理由に自衛隊と言う組織を英雄視して軍拡へ繋げようとする世論が散見される為、であるならばはっきりと戦闘専門部隊と災害救助専門組織に分けた方が良いと考えられる。自衛隊を離れた災害救助専門組織であれば法の縛りを気にせずに海外派遣を自由に行える。災害救助専門組織は自衛隊と言う組織下には置かず、最終的には完全独立した別個の組織にするべきと私は考えるので、本案はその前段階に位置づけている。
国防のための軍であり、専業と災害は分けるべきで警察の災害の部隊を組織をつくるべきだ。
改正した上で防衛部門は徐々に減らしてゆくのが良い。

国難としては、今後は軍事ではなく、災害（自然災害だけでなく、人為的災害も）への対応が必須。
すでに災害時などでは、自衛隊の存在なしには考えられないこと。
必要とする技能・資格、募集・応募条件、運用方法、訓練内容、定年、等々の最適化図ったほうが良いと思う。
出来れば憲法 9 条に則って平和活動のみの組織になってほしい
自衛隊を希望した方は災害時に被災者を助けたい、または有事に日本を守りたい、また両方という方が居ると思います。人を助けたいのに争う訓練をせざるを得ない場合の葛藤は大いなる絶望をかんじると思います。
憲法 9 条違反の自衛隊は、災害救助に重きを置くべきなので、防衛の部分は、徐々に縮小すべき。そのため、改編すべきである。
自衛隊の災害救助部門と国防部門を分ける事により現在の人員不足解消に繋がると考えるからです。やはり今の国際情勢を考えた際に有事がある可能性が大きくそれを懸念する若者が多いのでは無いか？予め災害救助に限定されていれば人員も今よりは集まるのでは無いかと考えるからです
ヒグマなどの害獣駆除も 対応可能になりそうだから
災害救助してるから自衛隊は素晴らしい！という感じに誘導され だから自衛隊は必要と思わされてる 災害救助部隊は重要 がさらに言えば 闘う部門 必要ないとも考える その費用 完成に防御に使って欲しい 老朽化したインフラなどに先手打って起きないようにする方がムダがない 防衛も武器を並べるのではなく しっかりしたシェルター機能を持った施設を各地に設置するのが 防衛だと思う そのためにもそうした部隊は必要
国防とは「全ての国難から国を守る」と考えます。他国からの武力攻撃と自然災害から国を守ることを考えると防衛と防災部隊に分けて活動することは必須だと考えます。
自衛隊の任務は、自衛隊法により国防(戦争)以外に「公共の秩序の維持」が定義されている(3条)。しかし、主目的は戦争をするための組織であり、これを否定する憲法に基づく民意を誤魔化そうとするために、災害時に必須である救助活動を行うように仕組まれたものとする。なお、防衛専門組織の必要性は、別に議論すべきである。また、災害救助に殺戮を目的とした武器は、全く必要ではない。
賛成側の主張とおりです。
現実には災害派遣は国民に見えるし、誰も反対はしない。それで自衛隊全体への賛成と結論される。クソ味噌です。
一部装備等を共用する等により予算の削減に努めたうえで分けるべき。
自衛隊を防災庁の配下に置く。都市の電線の地下埋設、防空避難所の整備など、外国からの攻撃に耐えられる、防衛可能な国土にする。最新兵器購入だけでは国防はできない。
分ければ、自衛隊に入ってくると思います。
災害だけでなく、農山村での獣害なども含めての「災害救助の防衛部隊」だけでなく、「予防部隊」と考えれば、もはや国内の状況的にその専門部隊としての災害救助の自衛隊は、絶対に必要だと思うから。
防衛のための軍隊と、災害救助の部隊は、仕事の内容がずれている。できれば別の組織を作らべきだと思う。但し、財政的な負担もあるので、簡単には出来ないとも思う。
自衛隊は軍隊ではなく災害救助隊にすべきだと思っています。
災害援助専門部隊はその必要な予算と人材増強により大きな災害発生時の大きな力になりうると思う。入隊したい人が増えそうな気がする。
自然災害が増えているので専門の救助組織が必要
賛成だが、戦闘の専門部隊は理想的にはなくす、最小限にして災害救助の専門部隊にしていきたい。

自衛隊に所属する人達でも「人殺し」と「人助け」では任務に対する忠誠心が違ってくると思う。人を助ける事に特化出来る政府機関があった方が良い。国王の為の軍隊でなく国民の為にあるのだから。
阪神淡路の震災の際、指示が遅れて救助に支障をきたした教訓により東日本大震災の時は、陸自のかなり上の方が長官の指示を待たずに独断で災害救助に出たと何かで聞いた。責任は自分が取ると。こういう縦割、事務的なことで緊急の際に1秒たりとも無駄にしないため、専門的部隊は必要だと思う。確かに入隊人数の現象は否めないと思うが、震災で助けられた当時の子どもが「次は自分が助ける」と入隊してくるという事実もある。災害大国の日本だからこそ早急に考えるべき。
ただし、消防も含めた新たな組織にし、できるだけ無駄がなく、かつ機動的にしたい。
防衛部門の大半は違憲部分であるので、そちらの部門は憲法で認められる内容とする法制化とすべき。
石川県民です。能登の地震の際に大変助けていただきました。能登に向かう自衛隊の車の列が本当にありがたかったです。防衛と災害救助それぞれの専門部隊に分ける事でもっと高度な組織になるなら賛成します。
それぞれの専門性を高めることができるから。
組織改編案があることを、この投票で知りました。外交で力を発揮しゆくゆくは、防衛部隊を縮小していき、国際救助隊に移行できたらと、妄想しているので。
災害が多発しているから
災害救助の役割が重要になってきているので、分けて専門家の養成や、新しい機材の開発に専念できる様にする方が良い。
最終的には軍隊を持たない国を目指す 世界の災害に貢献する国際救助隊を組織する これが最も強い安全保障である
戦闘部隊が拡大することを予防できると思うから
災害救助の位置づけを自衛隊法の中で、主要任務の一つとして（防衛任務と同等にする）明確にした方が良くと思うので。そのことによって災害救助により予算もマンパワーも割けることになる。
災害救助は、現在自衛隊の本来任務ではない。なお災害救助隊は自衛隊に残さず、現在企画中の防災省（またはその他）に人員・予算を移行すべきと考える。
ここで専守防衛の性格を明確にすべき。この舞台は日本から出ないよう定める。救助専門部隊創設には大賛成。こちらは「サンダーバード」のイメージで世界中どこでも行ける組織がいいと思う
最近の自衛隊では「国防」が強調されているが、真に必要なのは「災害救助の専門部隊」であることを認識しやすくなる
災害救助専門を自衛隊の本来業務として戦闘は限定されるべき。
地震大国日本に於いて、災害救助の専門を置く事は賛成
国民ならびに国土を守る。ためには災害復旧が第一の使命であるべき。国体など、どうでもいい。
災害救助が迅速な行われず手遅れとなっている。災害救助がしたくて自衛隊に入ったのに意と違う仕事につかされている。
災害が起きて復興するにはとてつもない時間と労力がかかる。日々の生活に寄り添い、支えてくれる組織が欲しい。
最低限の自衛に納めて欲しい。
災害が多発しており、その対応に自衛隊の力が必要と考える。今までは初期のみの対応で不十分なので専門性をもち継続して活動できる組織が必要である。
必要なアイテムが違うものを一緒に扱っている非合理がある
自衛隊は軍事組織であり、明らかに平和憲法に違反した存在だ。解体して軍事部門は段階的に縮小し、日本は軍事力によらない安全保障環境を目指すのが理想だ。

勉強不足でうまく書けませんがとにかく 信奉する識者の皆さんのご意見に従いたいです。
災害救助に特化した組織が必要だと思います。 そのための方法として、自衛隊の分割もひとつの案だと思います。
災害大国において各所がバラバラに動く事の効率の悪さと「ある」ことの安心感
戦争時もしくは緊張感が高まった緊急時に自然災害が同時に起こりうる日本国土では分けていないと、必要な人材、動力が指揮を執る者によって偏り被害が拡大する恐れがあると思うので。
戦争も災害もいつ起こるかわからず、同時に起きた場合、どちらか一方がおろそかになってしまうと思います。部隊を分けることで、少なからず対応できるのではと思います。
自衛隊、防衛費は縮小すべき。自衛隊解体の第一歩として改編は望ましい。
災害大国でもある日本で、蓄積されたノウハウを持った専門部隊が自国のみならず災害が発生した国に対して迅速に救助活動を行えばその事自体が平和活動であり外交活動になると思います。
現状で、すでに甚大災害時には自衛隊が救助活動に参加している状態をより明確に自衛隊の役割として明記することで自衛隊隊員の意識は、国民に対する役割が明確になると考えます。
災害復旧のスキルアップや迅速な対応を期待したい。
自衛隊は、自衛の防衛が業務であり、その訓練で培った災害救助技術を国民のために役立てる組織である。
賛成③の主張に同意。その為のステップとして賛成。
災害ばかりに派遣され、戦争があったときの対処が疎かになってしまう。分けて備えるべき。
とにかく日本は災害が多いからです。救助に特化した団体が必要だと思います。自衛隊は首長からの要請がないと出動できなかったかと思いますが、もっと現地の市町村長からの要請で行動できる体制を作るべきです
現在の自衛隊の位置づけは憲法上極めて不安定で、そのせいで自衛隊の皆さんの尊厳が十分に保護されていないため。
防衛と救助の部門を分けることには慎重にしたい（現状では今のままでいい）、ただ自衛隊法の改正は必要で、なし崩し的に「防衛力」が拡張されないようにしたい
まず、自衛隊が違憲であることを明らかにし、急がれる災害救助隊として編成し直す。併せて戦闘部隊としての機能は順次縮小しつつ、どうやって防衛機能を高めるのか（非戦の思想を理想でなく現実的な体制として構築していくか）にまともに取り組んでいく。
やはり今までの自衛隊の活動や活躍を見ていると今の曖昧な組織ではなく、防衛と災害時の救助専門組織に分ける必要を強く感じたから。 そして反対の中に大規模災害時に防衛部隊が黙って見ているわけにはいかないのでは？という意見があったが、それは法律にその時は救助専門部隊の指揮下に置かれるというような文言を加えればいいと思います。

反対

憲法上、非暴力組織として自衛隊は存在している点からも警察予備隊に戻すべきと考えます。
災害救助活動によって、戦闘部隊である自衛隊の存在に理解を示す一定層がいる。
災害救助が本来の任務ではないから。
現在の自衛隊の採用難の状況で運用コストと人材確保難が高くなるため非効率的。海外の常備軍ではP K Oなどを別動隊としている国もあるが、1つの組織で効率的に回すのが現状ではベスト。
必要性を感じないから。もし仮に、日本は自然災害(特に地震)が多いから災害対応に力を入れるとするなら、自衛隊を分割するのではなく、消防組織や医療・救急組織を増強する方向で議論・増強する方が自然ではないかと考えるため(事実上の軍組織に災害対応を任せっぱなしな現状がそもそも少し歪に思う)。
土木 通信 災害時オペレーション等 共通する部分が大い。実際の有事の際もこれからの戦闘では、人の力は少なくなる傾向と考える。サイバーや先端兵器対応も含めて平時 有事で優秀な人材プールを確保することが重要と考える
組織分割をせず、むしろ自衛隊の増員政策によって対応したいと考えるため。
本来消防が担う役割なので、不足ならそちらを充実するべきであり、自衛隊組織をわざわざ分割してしまうと分割損の方が大きいと思われる。
人手足りない
選択肢が少なすぎるが、そもそも憲法に考え方によれば、自衛隊は全体として災害救助に特化して良い
大規模な自然災害が発生した際、災害救助の専門部隊と雖も、国家権力の出先として非常事態宣言の名を借りて、国民を統制下におく虞れがある。
自衛隊員数はそんなに多くないのに、分けてしまっは有事の際に人員不足に陥るのではないかと考えるため。また、ただでさえ「自衛隊は人〇し集団」などと誹謗中傷する活動家がいるのに、分ければいよいよ彼らの言動も過激になるであろう。何を言おうが、自衛隊には災害時などに助けてもらっているのである。本当なら、不当に貶めるような意見を封殺するくらい存在が強くなってもいいくらいではあるが……
災害救助の専門部隊はわざわざ自衛隊から独立する必要はなくて、自衛隊という組織内にある即応部隊の専門性を高めることや、そもそも専門部隊を創設することによって対応できると考える。よって改正する必要はない。また常日頃から戦闘任務を主としない科に所属する隊員らに、災害に関する訓練を定期的実施することも可能だと考える。
分ける事で防衛部隊の存在を否定する人が一定数出てきてしまう事が懸念される。また、自衛隊全体の肥大化に繋がり、ただでさえ足りていない費用や人員が更に足りなくなる。
自衛隊は防衛に特化するべきであり、災害分野は消防が担い、進化させていく方が良い。
自衛隊入隊の志望動機に人の為に尽くしたいと考えた隊員の方々が多数おられます。主に災害救助がその目的です。しかしながら入隊者は銃の訓練をします。みなさんは戦闘員としての覚悟ができています。それを戦闘員と非戦闘員に分ける必要を感じません。本当に戦闘員になりたいくなければ、消防隊員になればいいのです。
自衛隊は外敵と戦うだけが役目ではありません。災害により生命の危険にさらされる場合とか、テロリストによる危害から我々を守って頂くのが役目だと思います。緊急事態に専門もくありません。
柔軟な対応ができなくなる可能性があるため
災害対応は消防が担うのが適切であり、自衛隊がそれを担うのは本来目的を鑑みると適切ではないと思われる。
組織を分けることで必要な要員が増加してしまう。

現状で十分な対応が出来ている。分離は人、費用の増大を招くだけ。
いずれにしても憲法違反。
自衛隊として必要最小限の武力を持つことに賛同したうえで、出動機会が少ない部隊の運用効率化に災害救助の任務を与えることにより予算の効率的な支出が可能になるため
戦闘専門部隊は戦闘したくなるのが人情である。災害対応を自衛隊にさせることで、自衛隊員の意識の中にかろうじて国民生活との接点を持たせることができる。
災害救助のための組織にして、いざ必要な時に備えて戦闘訓練も含むとしないと存続できないから。憲法は理想で、壊すべきでなく、軍隊に戦争させない歯止めになる。しかし現実には軍隊は必要だから持つための策。
戦争はしないと宣言した、軍隊がある限りいつかは参加するでしょう
日本に分けるだけの人的資源はない。
現状のまま防災、災害救助に特化すれば良い。
自衛隊の存在が国民一般に理解・容認されてきたのは、災害救助での活躍があつてこそである。仮に、戦闘専門部隊を分けた場合、戦闘部隊が先鋭化し再び戦争への道を進む流れを助長する恐れがある。
役割が違いすぎるから
そもそも、災害派遣とは、師団・旅団（作戦基本部隊）が独立して戦闘を遂行可能な能力の余技として行われているものであり、災害派遣に於いて自衛隊に期待される動員力・装備力・組織力・独立活動能力の何れも、戦闘と分離し得ない。確かに、戦闘部隊と災害対応部隊の能力は異なるという議論は有効ではあるが、それは戦後、警察から消防が分離したことによって終止符が打たれており、自衛隊が戦闘部隊であるからこそ災害派遣を実施できるとする基盤に対し、何らの有効な反論を行えていない。例えば、そもそも武力を行使するための存在である自衛隊の部隊を、災害派遣のためとはいえ国内で展開することは、地方自治や行政権の本旨からして如何なものかという議論は行政法上一応成立しうる（旧帝国憲法下での議論を参照）が、今日行われている議論は、そういった先人の知見を何ら活用せず、ただ武力に対する嫌悪感のみに依って組織改編を主張しており、支持できない。
軍隊としての役割より世界の災害救助隊として活躍してほしいから。
自衛隊法自体要りません。ネガティブリスト化して日本軍とすべき。
専門部隊を作ることは理解できるが、どうして自衛隊を分けるとなるのか疑問
部隊を分けてしまうと、縦割り組織による分断が起こると想定します。例えば、災害救助目的で、自衛隊派遣したが、その場で戦闘が発生したとすると、部署が違うので、対応しないことになるのは問題となると考えます
自衛隊そのものの存在は違憲だと思っています。しかしながら、大災害が起きた時にはその存在に頼らざるを得ないのも事実です。個人的には災害救助に重きを置いた部隊になるべきだと思っています。
専門部隊を分離すると膨大な人員、費用が必要になると思われる。現自衛隊の中だけで再編するのには反対ではない。
細分化した組織を作ることにより、トータルで税金投入が増える。勿論、災害時における自衛隊の皆さんには感謝しかない。あつてはならない戦争に備えるこすとはおさえるべき
一体化は専守防衛部隊としての機能としては、人材、費用等を考えると合理的で、組織編制で分割すると防衛部隊が政府の得意の法律解釈で、際限なく拡大していきそう。
戦闘部隊が、より先鋭化しないか。
自衛隊は解体し、災害救助隊のみにすべき
防衛専門部隊の絶対人数が現状でも足りない 徴兵制度の導入か防衛費と共に人員の報酬アップが必要

自衛隊の主目的を災害救助・災害対策とし防衛は副次的なもの（自警団みたいなもの）とする。 防衛の専門部隊を作れば武力増強が仕事になってしまうため武器兵器等の予算が膨れ上がってしまう。
実質的に国防を担う自衛官の定数削減につながる懸念がある。
分割に必要な経費や人材が不足する恐れがあるから
災害救助は本来消防がやることであり、それならば、その分の資源は消防の強化に回すべき。
マンパワーや装備に関しては現状でも十分。能登の震災をみれば災害救助の遅延は主に政治（及び官僚機構）の意思決定の不備ならびにサボタージュが原因。組織を分けることで経費の肥大化は避けられないので、現状のまま運営を見直すべき。
一層の軍事力強化につながる
自衛隊は、国内外の災害援助を主目的としたものにすべきである。
隊員不足
反対にした訳ですが、自衛隊の別組織でもとも思っています。ただどの組織にするかは別として こうした組織は必要だと思います。私は、国民すべて国防の意識はもたないとマズイと思っています。台湾も韓国も徴兵制が実施されているぐらい緊張状態にある訳です。日本も徴兵制という抵抗が大きいですが、皆が国を守るんだという考えに立てば。長い人生の内 たとえば2年間 お国の役にたとう。ということでこうした組織に参加してもいいのでは。成人する若い人が一時 心身を鍛えて社会にでる。いいと思いますよ。また、対象としてリストラされたとか 仕事したくても仕事に就けない人 こうした人を対象にしてもいいのでは。ここでスキルを上げたり、身に着けたりできるではないですか。そういう意味でも必要だとも思います。
戦闘部隊は不要
両者ともに、機能としては、本来的に同じと言える。分離することは非効率となる。
わざわざカテゴライズする意図は？戦争が出来る仕組みにする必要は無いと思います。
分割しても軍隊は残り、憲法に違反する
自衛隊員の確保が厳しい昨今、分散させることは戦力の低下に繋がりがねない
そもそも、憲法に軍を持たないと明記されているのに、部門分けする事は軍拡の第一歩ではない。グレーのままで9条を維持するのが唯一の被爆国の責務である。
組織の柔軟性を失わせ、要員不足を加速させる
わざわざ自衛隊組織の中に作らなくてよいのでは？
人的資源、費用、などを分割することになり、効率的ではない
防衛専門と言うことは、防衛と言う名前が付いた戦闘隊である。専守防衛を乃崩しにするきっかけとなります。
私は自衛隊の存在そのものを否定するものですから、自衛隊の組織改編という考え方は意味ないと思います。自衛隊ではなく、消防組織が災害対策にあたるべく今後、力をつけてもらいたいです。
総合的に考えると反対です。ただし、派遣が知事の要請によっているため、能登半島地震時の初動の遅れなど、問題点を丁寧かつ迅速に議論する必要があると思う。
自衛隊は、あくまで国土防衛（災害救助、侵攻を受けた場合に国際法に則った反撃行動に限定すべき。
大災害、食糧不足等への対応と防衛は国民危急対応の一部であり、同列の扱いとすべきである。軍事は平和実現の手段であり、それ以上のものではない。分離することで、すでに国内に出来上がろうとしている軍部を暴走させてはいけない。
衣食住のほとんどすべてを自己完結出来る自衛隊を分ける必要はない。
自衛隊を「防衛専門部隊」と「災害救助部隊」に分けるのではなく、厚労省の中に「災害救助隊」を置き、スペシャリストを育てて欲しい。温暖化が進みこの先、日本はもっと災害が頻発するだろう

し、地震もあちこちで起こるし、富士山の噴火も懸念されている。「消防署員」の人力では負担やノウハウが大きすぎるので、国の管轄で日本全国どこで発災しても速やかにスペシャリストが到着するようにして欲しい。ボランティア活動は一先ず落ち着いてからにして…
災害救援を主な活動にしてください。
反対意見とほぼ同意見です。
組織を分ける必要性を感じない
自衛隊イコール軍隊は、いりません。戦闘部隊をなくして、国際救助隊のような組織だけすることが、9条に則ることです。
有事の時、防衛と救助は分けられない。また災害救助は防衛の時の組織活動を行う際の確認の場ともなっている。
今ですら隊員不足の自衛隊を2分して防衛、災害救助に特化させるなどナンセンスな議論 防衛のために自己完結しているからこそ災害救助でも力を発揮できる。
特段の必要性を感じないが、正直よくわからない。
分けて形骸化させるより情勢に合わせた対応のできる体制づくり
災害救助の専門部隊を組織するのは賛成ですが、防衛省ではなく、総務省の下部組織としての部隊を作りなるべく自衛隊組織は小さくして専守防衛のみの自衛隊にしたい。
そもそも軍事訓練に反対しています
防衛であろうが何であろうが、戦う組織はいらない！ 災害救助のためであればいいと思うが、それであれば分割する必要は全くない。
世界が、大規模な災害に会った際、日本に救助委託したくなるような最優秀な災害救助に一本化するべきだと思うから。
そもそも自衛隊に戦闘部門があることが問題だと思う
災害救助の専門部隊は、自衛隊の中ではなく、外に作る方が良い。単に分けるではなく、人材を分けたうえで別物として組織し、専用の法律を新たに作る。 適当な言葉が見付からないが、敢えて言うなら陣取り合戦的なことに従事するのか、人を救助することに従事することは待ったく違う事だと思っているので。 論点が違いますが、自衛隊を分ける分けないよりも自衛隊法上に「上官責任」を載せるよう議論する方が先だと思います。
そもそも足りない人員の分散は、強制募集(徴兵)を促す危険がある。
そうでなくても、自衛官希望の人が少なくなっているのに、部隊を分けることによって、多人数が必要になったり、組織がフレキシブルに動けなくなってしまうように感じる。 また、希望の部隊に入らず、辞める人も出てくると思う。 例えば、大規模災害の直後に大規模災害が起きた場合など、動ける人の数が限られてしまい、後の災害の救助が後手後手に回ってしまうと思う。 また、何十万人の死者が出ると予測されるような南海トラフ巨大地震の時は、自衛隊全員で対処してほしいと希望する。 本 当の敵は、ミサイルで撃てるとは限らない。
災害にすぐ対応するのは、当たり前。人手不足や対応機材の不足などと、言い訳されたらぜいきんの無駄遣い
人口が減っていく中、分割するとどちらも必要な時に機能を発揮しないと思われる
自衛隊そのものの是非は議論していかなければならないが、専門部隊と災害救助の専門部隊に分割することは現実的に難しいのではないか。
防衛専門部隊の軍事力がしだいに強化され、戦前の軍隊と同様に政治的影響力を高める可能性があるから。
自衛隊を分断することで余計なコストがかかることが心配だから
自衛隊の組織改編ではなく、新たに「災害救助隊」を作る。自衛隊は順次解散とする。

自衛隊が定員割れしている中で組織を分割してしまうと、有事の際には防衛のための人員が不足し、災害の際には災害対応の人材が不足してしまうかもしれないため
分けたら、防衛という戦闘部隊が、より先鋭化、ブラックボックス化すると懸念。
防衛部隊と災害部隊に分けると2部所の間は差が生じひとつは軍隊。災害部隊はそれに付属する機関となる
自衛隊は国土を守る活動が基本ならば災害も防衛も同じ任務。敢えて分ける必要はない。
災害救助特化なら自衛隊の一部ではなく、別なそしきをたゞいあへれば良い。
自衛隊の位置づけを明確にし、憲法に合致させることが前提である。 憲法に明記して、その後に慎重に議論すべき。
分けられるほどの人員がいない。 分けたとしても緊急時になればどうせ部隊混合になるのは目に見えている。 また、戦闘の専門部隊を作ることで、今の与党に悪用されかねないことの方が脅威だと感じる。
分けることに意味があると思えないから。以前、台風被害に合ったときに自衛隊の人たちに大変お世話になったことがあります。現在のままでも十分に自衛隊は対処できると思います。
有事に災害が起きる場合がありますし、逆に災害が起きた後に暴動が起きる場合もあります。そういう二つが同期して発生することがありうるとすれば、部隊を二分するのは、適切ではないと思います。
結局は現体制における不備というものが特に無いように思えるため。
防衛省を平和省に名称変更し、軍隊としての自衛隊を廃止、平和省の職員で働いてもらいたい
戦闘は違憲である。防衛であろうと戦闘部隊はいらない。災害救助部隊のみにすべき。
自衛隊は軍隊ではない
人員不足でもあるためこれは難しいと思う。但し、陸海空各師団の中に災害時に先陣を務める部隊を創設するのはどうかと思う
自衛隊の活動内容、目的を災害救助に特化したものとすべきだと考えるため。 戦闘能力のような、人を殺傷するためではなく、人を助けるために自衛隊の力はつかうべき。 他国にも災害救助で活動多く常にしていれば他国に、とっても緊急時なくてはならない存在=攻撃対象ではない国になると考える。 気候変動の危機の中どのくにも戦争をしている場合ではないと思う。
自衛隊は、災害救助専門部隊だけに統合すべきだから。分ける必要ない。
先に投票した際に書いた理由と同じです。
2つに分けるのではなく、災害救助に特化する。火山列島で地震大国の日本にあって、自衛隊は災害救助の専門部隊として活躍するのが平和憲法を持つ日本に最も適っていると思う。国内のみならず、世界の災害にも即応すれば外交としての意義も大きい。戦争放棄の憲法を持つ日本は、国内よりむしろ海外での評価が高く、この信頼こそ非戦国家の平和外交に匹敵する。現に中東のカタールやオマーンは平和を目指す仲介外交で信頼を得ている。中米にはコスタリカのように、憲法に常備軍の廃止を明記した国もある。全方位外交と共に学ぶべきことは多い。「戦略」とは、「戦」いを「略」す為にあらゆる施策を駆使して戦争を未然に防ぐ事という言葉があるが、防衛（戦闘）方向だけを見ていると見失うものがあるのではないか。
防衛の専門部隊の詳細が分からない。
正直、自衛隊については自身の知識不足であり、ここでの討論の内容をみただけでは意見を決めかねるところはありますが、戦闘専門の部隊ができる事で、軍隊としてのお墨付きを与える事になる気がするのが嫌です。
消防隊組織を災害救助のために拡大強化することが妥当だと考える。
現場はやりにくくなるだろうね。ミサイル弾着による被害も、巨大地震による被害も、不確実性においてはおなじ。わけるとややこしい。

防衛省の中に２つの庁を設定して、戦闘と災害救助の部隊を準備することが望ましい。 人員は２つの丁をまたいでの異動を可能にすることで人員交流が可能になり、Know-How の蓄積に寄与するものと考えます。 防衛費増額をアメリカからプレッシャーを受けている中で、防衛装備品という名目で災害救助向けの装備を拡張することは対外的な説明になるでしょう。 災害救助品は使途によって戦闘品にも成り得ます。 この説明をできるようにするためにも分割するべきではありません。
自衛隊ではなく災害救助隊が新設されればよいから
自衛隊の改編ではなく消防や海保の再編をもって災害救助専門とすべき 自衛隊は軍事組織であるべき
戦闘部隊は不要。自衛隊を災害救助隊に移行し、災害救助の専門部隊にするのがいい。
戦闘の部隊を明記することは憲法違反となるので、法律で認められないと思う。すでにそこで働いている人も居られるし、乱暴に決めてはいけない、議論が必要だと思う。
分ける意味が不明。 寝言が過ぎる
自衛隊の災害救助は国民は本当に頼りにしているのではないか。今だと熊の駆除にも手を貸してもらえればと思う。増えすぎ。防衛を分けてしまうとそっちは戦争に特化して戦争部門まっしぐらになるでしょう。
現行の自衛隊を分割すれば、それぞれが弱体化することが予想される。分割に際しスキル（知識、技量など）人員 予算も分割されれば意味がない。それらをすべて増やす施策が必要
現行の組織を分けるだけではどちらも人員不足に陥ってしまうと思うから。それぞれの専門性を活かしたうえで人・モノ・予算も確保して厚みのある組織ができるのなら、自衛隊に入って手伝いたいと思う人も増えるかもしれない。